

◎この通告書は、定例会開会第1日目の散会時刻までに提出してください。

発 言 通 告 書 下記の通り、発言したいから通告します。 令和 8 年 9 月 1 日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 6 番 (氏名) 和田 義二 印		令和 年 月 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付	
		(受付印)  発言順位No. /	
番号	発 言 の 要 旨		答 弁 者
	質問事項 (内容)	1 南海トラフ地震被災と対応する「事前復興まちづくり計画」について ① 2011年に発生した東日本大震災から早くも15年が過ぎようとしているが、未だに復興途上である。この震災直後から政府(中央防災会議)は今後30年以内に60%から90%の確率で発生し、マグニチュード9クラス・震度7の地震による被害想定を公表し防災・減災対策と意識改革を促してきた。(これを受け自治体・住民も避難タワー建設・避難路の確認、建物耐震改修・家具固定等の防災減災対策を講じてきた)。この被害想定を国は昨年2025年3月に、県は今年3月にそれぞれ13年ぶりに改訂した。 新しい県版最大被害想定は(第6期行動計画25年～27年)では津波避難行動意識の向上による死者数が減る一方、最新の地形データを用いたことによる震度7区域の増で(2012年は26市町村が、2025年は大川村以外の33市町村に増)これにより建物被害が5万棟増(20万9千棟)、負傷者も6千人増の4万2千人になる、厳しい課題を想定し更新した。 土佐町における、この被害想定によると、震度7の面積割合0.9%(これまでは震度5弱か強)。死者数30人。負傷者数190人。全壊建物500棟(4673棟)。1日後の避難者数710人となる。これらの具体的な厳しい想定をどう受け止めているか、その上で今後一層のレベルアップと加速化した防災・減災対策の必要性和同時に住民への情報(最近策定された地域防災計画)の共有・周知方法を伺う。 ② 災害が起きる前から、あらかじめ復興の課題・目標・手順を想定し被災後、いち早く復旧・復興に取り掛かるための「事前まちづくり復興計画」の必要性和、計画にあたっては住民との共同を考えてはどうか問う。	町長
	質問事項 (内容)	2 スポーツによるまちづくり・健康づくりを標榜する町として「土佐町表彰規則」にスポーツ部門を加える改正を。 土佐町は恵まれた自然・フィールドを活かしてのアウトドアスポーツを始め屋外・屋内年齢を問わず生涯を通しスポーツに親しむ住民が多い。町政の基本理念としての町づくりの課題にスポーツによる「健康な人づくり」を目指していることは極めて有益と考える。この間、町の各種スポーツ振興にあたり「総合型地域スポーツクラブ・ハビネススポーツクラブ」の果たした役割は大であると思う。こうした土壌の上に町民にとって、長年のこれまでの成果ともいえる喜ばしくも賞賛に値するビッグなニュースが飛び込んできた(地藏寺の、Iさんのトレイルラン連続快挙)である。 各種スポーツの全国大会等で特筆すべき成績を修め、町民に勇気と希望を与え模範となるようなアスリート(個人・団体)に対しそれを賞賛し激励するためにスポーツ部門を設け「表彰」してはどうか。町長の所見を問う。	町長
プロジェクト及びスクリーンの使用(動画等に限る)についてどちらか一方に○を入れてください(有・無)			

1 質問の要旨は、具体的に記載すること。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

<u>発 言 通 告 書</u> 下記の通りの発言を希望するため、ここに通告します。 令和8年 9月 1日 <u>土佐町議会議長 和田 義嗣 様</u> (議席番号) 3 番 (氏名) 鈴木大裕 		令和 年 月 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付	
		(受領印) 号 8.9.1- 土佐郡 土佐町 議会 発言順位No. 2	
番号	発 言 の 要 旨		答弁者
1	質問事項	安全な川遊び推奨のためライフジャケットの貸し出しを	町長
	町中を流れる清流は、土佐町の大切な教育と観光の資源です。町ではこれまでも『協働の川づくり』事業として、集落活動センターが主体となって川の遊び場づくりに尽力してきたが、安全な川遊びを推奨するために、集落活動センターによるライフジャケットの貸し出しを支援できないか。 【プロジェクター及びスクリーンの使用 (有り)】		
2	質問事項	ふるさと教育と教員の働き方改革について	教育長
	① 旧小学校を活用した「ふるさと教育」をどう進めていくか ② 今年度の土佐町小中学校の教職員の「時間外在校等時間」の現状は。45分ないし60分という法定の休憩時間を、教職員が勤務時間中に取得することは現実的なのか。 【プロジェクター及びスクリーンの使用 (無)】		
3	質問事項	高知県が進めるグローバル政策について	町長
	2023年6月議会で、『高知県のグローバル政策にちなんだ町の魅力の海外発信を』と提案したが、その手応えと今後の見通しは 【プロジェクター及びスクリーンの使用 (有)】		
4	質問事項	気候変動やAIの時代に、水源地に求められる必要な施策は	町長
	今後、気候変動による渇水や、AIのデータセンターによる水の大量消費による深刻な水不足が想定されているが、水源地に求められる必要な施策は 【プロジェクター及びスクリーンの使用 (有)】		

質問①高松市の子ども用 ライフジャケット無料貸し出し事業

ライフジャケットレンタルステーション

高松市教育委員会保健体育課

T かつさの時に
K 子どもを守るのは
M 身に付けたライフジャケット！
T たかまつで無料レンタル実施中



貸出するライフジャケットについて

◇ライフジャケットのサイズ

- S サイズ 19着 (身長 85cm～105cm)
- M サイズ 12着 (身長105cm～125cm)
- L サイズ 8着 (身長125cm～155cm)

◇貸出対象

市立幼稚園・こども園・小学校・中学校
幼児、児童、生徒を引率・監督する市内の団体

◇貸出申込み

右記の問合せ先まで

◇貸出・返却時間

平日の9時から～17時

◇貸出期間

原則1週間以内

◇物品受取場所

高松市北消防署
〒760-0005 高松市宮脇町1丁目2-34

まずは、右記の問合せ先までご連絡ください

高松市教育委員会は、子ども用ライフジャケットを「無料」で貸し出す「ライフジャケットレンタルステーション」を開設しています！

市立学校（園）及び幼児・児童・生徒を引率・監督する団体の皆様！プールや海、川などでの活動の際に、ぜひライフジャケットを活用ください。

貸出要領・申請書は
保健体育課 HP から



【問合せ先】

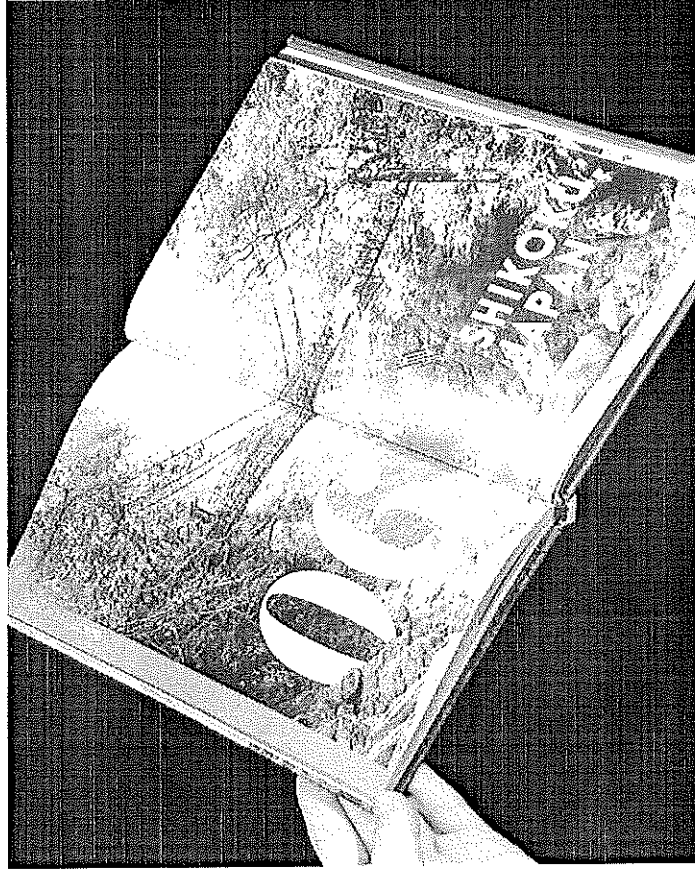
高松市教育委員会保健体育課
(担当：大元)

TEL 087-839-2657

FAX 087-839-2624

E-mail hotaifcity.takamatsu.lg.jp

質問③ インバウンド需要の拡大

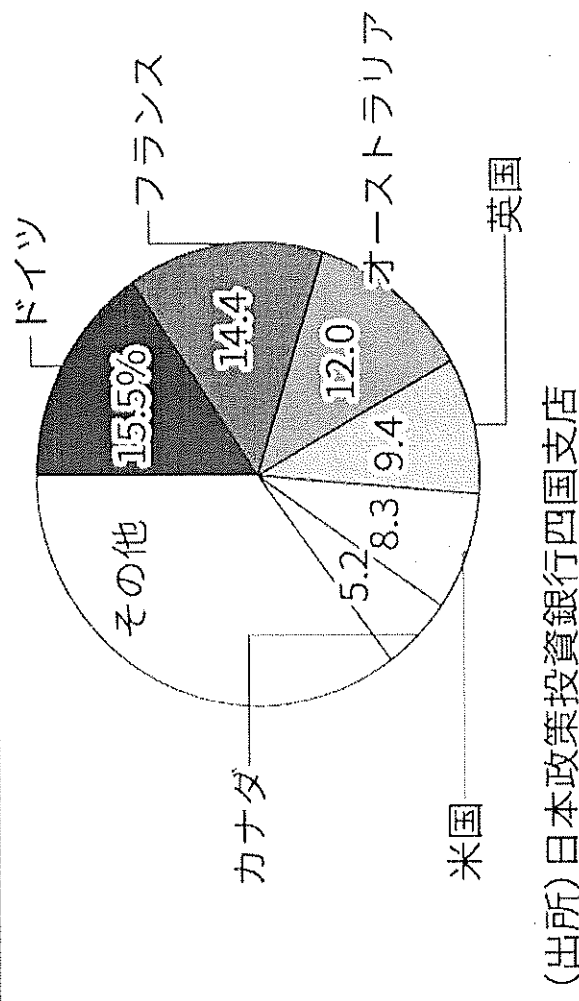


(出典：NHK)

四国が世界6位に選ばれた

ヨーロッパで人気の高い四国

欧米豪からの四国訪問客は独仏が目立つ



質問③ インバウンド ワーケーションの需要

Chung

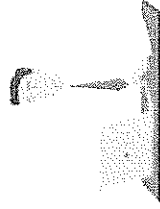
デジタルノマド＝

自分で働く場所を
選べる人たち

市場規模
年間支出額
4,000 万人 120 兆円



主な
職業



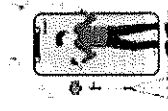
勤務地の指示がない

会社員



自分で働き方を選ぶ

フリーランス



熱いものが仕事

コンテンツ

クリエイター



ビジネスのために

起業家

中小企業役員



お財布事情の自由を

投資家

(出典：株式会社 遊行 2025)

質問④

AIデータセンター、大量の水消費 懸念 米、50万人分「がぶ飲み」

日本経済新聞

朝刊・夕刊 LIVE Myニュース 日経会社情報 人事ウオッチ Nikkei Asia NIKKEI Prime

この記事は会員限定記事です

AIデータセンター、大量の水消費 懸念
米、50万人分「がぶ飲み」

2025年12月27日 2:00 (会員限定記事)

全文



人工知能（AI）の開発や運用に使うデータセンターの建設が米国で急増し、サーバーの冷却に使う水の大量消費への懸念が広がっている。米国のデータセンターの年間水使用量は660億リットルと日本の50万人分の生活水に相当し、なお増え続けている。建設地では住民が地下水枯渇と干ばつにおびえている。

世界の問題：読りしよ

：第一日目の散会時刻までに提出してください。

発 言 通 告 書

下記のとおり、発言したいから通告します。

令和 8 年 8 月 28 日

土佐町議会議員 和田 義嗣様

(議席番号) 9番 長 野 保

令和 8 年 8 月 日
午前 時 分 受付
午後 時 分 受付

(受付印)

8.9.1-

発言順位

NO

3

土佐郡 佐々木町

経 済 産 業 部

町長

町長

プロジェクターの使用

あり

1 質問の要旨は具体的に記載すること。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査員とすること。

◎この通告書は定例会開会第一日目の散会時刻までに提出してください

発 言 通 告 書 下記の通り発言したいから通告します。 令和 8 年 9 月 1 日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 5 番 氏次 真貴夫		令和 年 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付 (受付印) 号 8.9.1- 土佐郡 土佐町 議会 発言順位 4
発 言 の 要 旨		答弁者
質問事項	大規模災害に備えた「防災専門員」の配置を	町長
(内容) ① 防災の担当者が多忙を極めている現状と、人事異動等による専門ノウハウの維持・継承における課題についてどのように認識されていますか。また、発災時の初動対応から復旧段階まで、一貫した対応を行うには、防災知識と経験を有する専門員の配置が必要ではないかと考えます。町長の見解をお伺いします。		
質問事項	土佐町人口減少対策事業の活用状況と新たな提案について	町長
(内容) ① 各種人口減少対策補助金の申請件数・執行状況と活用状況に対する認識をお伺いします。 ② 現行の移住・定住支援策は34歳以下の若年層・子育て世代に主軸が置かれていますが、年齢制限を見直し、50代・60代の定年退職後で即戦力となるリターン者も含めるべきではないかと考えますが町長の見解をお伺いします。 ③ 移住定住政策に町独自の大胆な施策が必要ではないかと考えます。 案として ・町が住宅を整備し20年間住み続ければ無償で譲渡 ・「住居＋農地＋農機具」一定期間の定住・営農を条件に無償貸与など		
質問事項		
(内容)		

◎この通告書は、定例会開会第1日目の散会時刻までに提出してください。

発 言 通 告 書 下記の通り、発言したいから通告します。 令和 8 年 9 月 / 日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 8 番 (氏名) 式地 望 志 朗 (印)		令和 年 月 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付 (受付印)  発言順位No. 5
番号	発 言 の 要 旨	答 弁 者
質問事項 (内容)	樫山トンネル、田園新幹線、開通後の町構想は。 プロジェクター及びスクリーンの使用（動画等に限る）についてどちらか一方に○を入れてください (有 ・ 無)	町長
質問事項 (内容)	夏休み、プール利用について。 プロジェクター及びスクリーンの使用（動画等に限る）についてどちらか一方に○を入れてください (有 ・ 無)	町長 教育長
質問事項 (内容)	米、町独自の販売への取り組みを。 プロジェクター及びスクリーンの使用（動画等に限る）についてどちらか一方に○を入れてください (有 ・ 無)	町長

- 1 質問の要旨は、具体的に記載すること。
- 2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

発 言 通 告 書 下記の通りの発言を希望するため、ここに通告します。 令和8年9月1日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 4番 (氏名) 前田 清美 印		日 月 年 時 分 受 付 午後8時1分 受 付 (受付印) 土佐郡 土佐町 議 会 発言順位№ 6
番 号	発 言 の 要 旨	答 弁 者
1	質問事項 田井地区の地域づくりを支える拠点整備を 現在、土佐町内には4つの集落活動センターがあり、それぞれにその地域の特色を活かし、課題に沿った活動が行われています。いずれのセンターも地域において重要な存在であり、課題解決の入り口になっていることは行政もご存じの通りです。特に、どの地域も担い手不足や人口減少は第一の課題であり、田井地区も、近い将来、更なる人口減少が進む可能性は高く、早期段階から対策を講じることが必要であり、特に商業の再活性化や防災の取り組みを行う上でも、拠点作りが必要では。町長の見解は。	町長
2	質問事項 嶺北高校魅力化に「水と山のフィールドキャンパス」構想を ① 嶺北高校の最大の魅力は、豊かな自然環境の中にあることだと思います。嶺北地域には、多彩なアウトドア資源があります。しかし、交流人口は生まれても、高校進学や継続的な関係人口の創出には十分につながっていません。地域全体を学びの場とする「水と山のフィールドキャンパス」構想を掲げ、アウトドア科や特色あるコースの創設について、嶺北4町村・県・学校が連携して検討を始めてはどうでしょうか。 ② 一方、嶺北高校には、近年の高い進学実績や、少人数だからこそ可能な先生方のきめ細かな進路指導という魅力もあり、総合型選抜や学校推薦型選抜など、生徒一人ひとりの得意分野や活動実績を生かせる入試にも対応しやすい環境です。こうした少人数制教育の強みが、地元の中학생や保護者に十分伝わっているのでしょうか。嶺北高校の魅力を変えて整理し、進学実績や指導体制も含めて積極的に発信すべきではないでしょうか。	町長
3	質問事項 小中学校保護者への情報提供と要望への対応は ① 年度当初のPTA総会において、部活動を選ぶ際の判断材料となる送迎情報が不足しているとの指摘があり、分かりやすい一覧表などの作成・配布を求める要望がありました。「検討する」との回答以降、どのような対応がなされましたか。 ② また、災害時における児童生徒の安否確認や保護者への情報共有、学校が避難所となった場合の児童生徒への対応などが、保護者に十分知らされておらず、不安の声があります。現在の対応方針と、今後の周知方法は。	教育長
4	質問事項 やまとしごと協同組合の利用拡大と持続可能な運営戦略は 制度には国及び町の財政支援があることから、その効果と料金設定の関係性を明確にし、組合員となる事業所や働く人材を増やしていく必要があると思います。 ① 1時間あたりの派遣利用料と給与は。半日雇用などのニーズにも応えられるか。 ② 組合員事業所のメリットをどのように示し、小事業主への加入促進に繋げるか。 ③ 利用拡大に向け、利用開始期の料金軽減や町独自の利用促進支援を検討する考えは	町長
5	質問事項 土佐町産米・地産地消応援制度(仮)の創設を 米価下落への備えと町内での地産地消を一体的に進めるため、土佐町産米の販売実績に応じ、生産者への販売奨励金と町民への購入補助を組み合わせた、期限付きや制限付きの支援制度を実施できないか	町長

*スクリーン使用あり 2) 県外高校の取り組み・嶺北高校配布資料 4) 宮崎県ごかせ協同組合

普通ではない、普通科。

大自然の中で学ぶ

令和3年度に設定された学校設定科目「アウトドアⅠ・Ⅱ」

ここでしかできない学び、ここでしかできない経験

豊かな自然の中で新しい自分を見つけませんか

豊かな環境で自己実現を支援する活動

令和3年度開始 学校設定科目

学年	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1学年		現代の 国語	言語 文化	公共				数学Ⅰ (習熟度別)			科学と 人間生活		体育	保健	音楽Ⅰ	英語 コミュニケーションⅠ (習熟度別)	家庭 総合	情報Ⅰ												アウト プット アイ	総合 探究	H R
2学年	I 型	文系 国語 表現	文学 国語	歴史 総合	数学A	生物 基礎		体育	保健	英語 コミュニケーションⅡ (習熟度別)	家庭 総合	情報 処理	数学Ⅱ	論理・ 表現Ⅰ	政治経済 基礎															アウト プット アイ	総合 探究	L H
	II 型				数学A																										総合 探究	
3学年	I 型	文系 国語 表現	文学 国語	地理 総合	日本史探究	数学Ⅱ	化学 基礎	体育	英語 コミュニケーションⅢ (習熟度別)	情報処理	数学B	数学C	論理・ 表現Ⅱ	古典探究	生物															総合 探究	L H	
	II 型					数学A				情報処理	音楽Ⅲ	生活と 福祉	英語 コミュニケーションⅣ																		総合 探究	

※予定



国公立・私立大学への進学

- 少人数でも、放課後講習や土曜講習など個別にしっかりと対応しています。令和3年度は国公立大学へ一般選抜で1名合格しており、指導体制も充実しています。
- 類型選択授業を実施し、2年次より3種類の選択授業が可能となり、国公立大学への入試にも対応しています。
- 指定の模擬試験について受験料が補助されるので、積極的に受験し、進路目標に向けて勉強することができます。



就職に向けて資格取得を目指す

- 簿記は、全経簿記検定の資格取得に向けチャレンジできる環境が整っています。
- 情報処理では、Word、Excel、PowerPointなどのソフトを活用し、社会で求められる実践的なスキルを楽しみながら身に付けています。
- 「漢検」「英検」「数検」等の取得に向けて個別指導などを実施し、実力をつけています。



一人ひとりを大切にする教育

- 英語、数学では習熟度別授業を実施し、個々の力に合わせた授業を展開しています。
- 生徒一人ひとりの学習を支援する環境を整えており、複数の教員が授業でサポートを行っています。苦手な教科でも安心して授業を受けることができます。
- 3年間を通して進路ガイダンスを実施し、将来に向けたキャリア教育を行っています。



東京都立 五日市高等学校

Tokyo Metropolitan Itsukaichi High School

ホーム

校長から

学校生活

学年から

学習について

中学生の皆さんへ

五高の進路指導

経営企画室

定時制HP



[前頁に戻る](#) [ホーム](#) → [情報詳細](#)

情報詳細

3年アウトドアコース、デイキャンプin自然人村

3学年アウトドアコース、最後の授業は、いつもお世話になっている自然人村でデイキャンプを実施しました。ファイヤースターターで火起こし。各自で考えた野外調理。ハンモック体験。それぞれがこれまでの経験を踏まえてデイキャンプを楽しみました。昼食後は、2年間アウトドアコースで学んだ事を振り返り、1人ずつ、楽しかったことや辛かったこと、思い出に残っていることを発表しました。

●アウトドアコース

地域の豊かな自然環境・資源を活用した体験活動から地域理解を深め、地域貢献や地域活性化の提言（探究活動）ができるとともに、アウト



ドア関連の知識・技能を身に付け、競技者や指導者、起業家等を目指します。2年次ではボルダリング実習やトレイルランニング（ハセツネ大会ボランティア含む）実習、林業実習（道作り）、リバートレッキング実習、上級救命講習、登山などを行います。3年次では体験活動を活かし、それらの活動を深めるとともに、主体的にイベント企画・運営を行います。

⇒「アウトドアコースの紹介動画（さんだるちゃんねる）」はこちら

令和6年度(令和7年3月25日現在)

《進字》

《進學》

【四年制大学】

[illegible]

南知学園短期大学
看護学科
幼児保育学科

龍馬情報ビジネス&フー・ド専門学校

龍馬看護ふくし専門学校 子ども未来
高知福祉専門学校 子ども福祉学科
高知職業能力開発短期大学校 生産機
高知県立高等技術学校 自動車整備科
神戸ベルエッセル美容専門学校 美容科

〒114 東京都荒川区西日暮里5-1-1 日暮里駅南口徒歩5分
 上運輸株式会社 商社知主管支店

《枕草》
有 限 会 社 大 地 と 自 然 の 恵 み
株 式 会 社 四 国 銀 行
高 知 お お と よ 製 材 (株)
厚 畠 会 社 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム
ト キ ワ 苑

*道路決定状況

項目	男	女	計
大學	8	11	19
短期大學	0	0	0
専門学校	4	6	10
職業	7	2	9
その他	0	0	0
計	19	19	38



社員の給料

月給制(週休2日制)	217,180円
月給制(週休3日制)	173,740円
時給制(パートタイム)	時給1,250円

社員の福利厚生

社会保険、厚生年金、雇用保険、労働保険、年次有給休暇、特別休暇、通勤交通費補助、退職金制度、キャリアアップ面談・スキルアップ研修等



令和8年度の派遣料金及び社員の時給

項目	組合員 税別/(税込)	非組合員 税別/(税込)	労働者の実際時給額
1時間当たりの派遣料	1,050円/(1,155円)	1,500円/(1,650円)	1,250円
1日(8時間)あたりの派遣料	8,400円/(9,240円)	12,000円/(13,200円)	10,000円
時間外派遣料(1日8時間勤務を超える時給)	1,312円/(1,443円)	1,875円/(2,062円)	1,562円
休日出勤派遣料(派遣労働者の月の所定勤務日数を超える日の時給)	1,417円/(1,559円)	2,025円/(2,227円)	1,687円

組合員マージン率 : -8.2% / 非組合員マージン率 : 24.2%



◎この通告書は、定例会開会第1日目の散会時刻までに提出してください。

発 言 通 告 書 下記の通り、発言したいから通告します。 令和8年9月1日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 2 番 (氏名) 澤田 智則 印		令和 年 月 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付	
		(受付印) 受付 第 号 8.9.1- 土佐郡 佐々木町 議会 発言順位No. 7	
番号	発 言 の 要 旨		答 弁 者
1	質問事項 嶺北高校の魅力化と持続可能な地域づくりについて これまで嶺北高校の魅力化については、地域の大人や行政、学校関係者が中心となって、教育環境の充実や地域との連携、寮の整備など、さまざまな取り組みが進められてきた。こうした取り組みは、嶺北高校の存続と魅力向上に一定の成果を上げてきたものと評価している。 一方で、これからの高校魅力化においては、「大人が魅力をつくり、生徒に選んでもらう」という発想から、生徒自身が地域の課題を発見し、地域の未来を考え、地域内外の人々とつながりながら、自ら嶺北高校の魅力をつくっていく仕組みへと転換していくことが重要ではないかと考える。 嶺北高校は、単に高校を存続させるための取り組みではなく、嶺北4町村が抱える人口減少、担い手不足、地域産業、農林業、地域交通、空き家、環境などの課題を、生徒自身が「自分たちの地域の課題」として捉え、探究し、行動する場として位置づけることができる。 現在、嶺北高校では探究的な学びが進められていると認識しているが、これをさらに深化させるためには、生徒の問いを地域社会につなぎ、専門家や地域住民、大学、企業、行政などと継続的に結びつけるサポート体制が必要である。 また、来年度以降、新たな教育課程の設置についても検討されていると聞いており、嶺北高校が今後どのような特色ある教育を打ち出していくのか、大きな期待を寄せている。 さらに、これからの嶺北高校には、地域内の人材を育てるだけでなく、地域外の人々との新たな関係を生み出す「関係人口づくりの担い手」としての役割も期待したい。高校時代に地域で学んだ生徒が、卒業後も嶺北地域と関わり続けること、また、探究活動を通じて地域外の大学生や企業、専門家などとの関係を構築することは、将来の移住・交流・地域づくりにもつながる重要な資産になると考える。 その一方で、少子化が進む中、将来的に嶺北高校が県立高校として存続することが困難となる可能性も否定できない。したがって、県立高校としての魅力化を進める一方で、将来的な選択肢として、嶺北4町村が主体となる町村立高校というあり方についても、今の段階から研究・検討しておく必要があるのではないかと考える。 そこで、以下について町長の所見を伺う。 - そのこれまでの大人中心の高校魅力化から、生徒主体の高校魅力化へ転換していくことについて、町としてどのように考えているのか。 - 嶺北4町村の地域課題を探究し、その成果を地域づくりにつなげる高校としていくため、現在の探究学習をさらに深化させる支援体制を、行政、学校、地域、企業、大学等と連携して構築していく考えはないか。 - 来年度以降に検討されている新たな教育課程について、町としてどのような特色を持たせることを期待しているのか。また実現に向けて町としてどのような役割を担うのか。 - 嶺北高校の生徒を、地域内外の関係人口づくりの担い手として育成し、卒業後も地域とつながり続ける仕組みを構築していく考えはないか。また、既に構築されつつある関係人口との連携を、高校教育の中にどのように位置づけていくのか。 - 将来的に嶺北高校が県立高校として存続できなくなる可能性も見据え、嶺北4町村が主体となる「町村立高校」という選択肢について、今後研究・検討を進めていく考えはあるのか。 プロジェクター及びスクリーンの使用についてどちらか一方に○を入れてください (無)		町 長

1 質問の要旨は、具体的に記載すること。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

◎この通告書は、定例会開会第1日目の散会時刻までに提出してください。

発 言 通 告 書 下記の通り、発言したいから通告します。 令和8年9月1日 土佐町議会議長 和田 義嗣 様 (議席番号) 2 番 (氏名) 澤田 智則 印		令和 年 月 日 午前 時 分 受付 午後 時 分 受付 (受付印) 第 号 8.9.1- 土佐郡 佐々木町 議 発言順位No. 7
番号	発 言 の 要 旨	答 弁 者
2	質問事項 米価下落への対応と関係人口を活用した持続可能な農地保全について これまでも、農業者の高齢化や後継者不足、離農、耕作放棄地の増加、農地集積など、本町農業が抱える課題について一般質問で取り上げてきた。 現在、米価格は昨年と比較して4割程度下落が予想されており、生産費の高騰も続く中、この価格水準では米の生産・販売という経済活動だけで農業を維持することが困難になることが懸念される。今後、さらなる離農が進めば、農地の荒廃のみならず、農道・水路の維持、景観、防災、集落機能など地域全体に影響が及ぶこととなる。 このため、これまでの「農業者を支える」という視点に加え、農業者が減少することを前提として、「誰が農地を守るのか」という視点から農業政策を再構築する必要があると考える。 先般、岡山県美作市の「棚田団」の取り組みを視察した。地域外の人々が継続的に地域に関わり、農作業や棚田保全を地域住民とともに担う仕組みには、本町の農地保全にも活用できる可能性を感じた。 そこで、町外からの関係人口を農地保全や地域活動の担い手として位置付け、農業者、集落、企業、大学、地域団体等をつなぐ町全体のコーディネート機能を持つ組織・仕組みを構築する必要があると考える。また、「ふるさと住民登録制度」を活用し、本町に継続的に関わる人々を登録・可視化するとともに、農地保全や地域活動への具体的な参加につなげる仕組みを構築してはどうか。 以上を踏まえ、次の点について町長の所見を伺う。 - 米価下落による本町農業への影響と、今後の離農増加についてどのように認識しているか。 - 農業者の所得確保だけでなく、「農地そのものを守る」ことを政策の柱として位置付ける考えはないか。 - 岡山県美作市「棚田団」のように、関係人口を活用して農地保全を進める仕組みを本町でも構築する考えはないか。 - 農地所有者、農業者、集落、関係人口等をつなぎ、農地保全を総合的にコーディネートする町全体の仕組みを構築する考えはないか。 「ふるさと住民登録制度」を活用し、関係人口を農地保全や集落維持につなげる本町独自の仕組みを構築する考えはないか。 プロジェクト及びスクリーンの使用についてどちらか一方に○を入れてください (無)	町 長
3	質問事項 Uターン対策について 本町では人口減少が引き続き進行しており、これまで取り組んできた関係人口づくりから移住・定住につなげる施策は、今後も重要である。一方で、関係人口からの移住には一定の時間を要することから、人口減少対策としては限界もある。 そこで、本町出身者が町外で得た知識や経験、人脈を地域に持ち帰り、地域づくりの即戦力となる可能性を持つ「Uターン」に、改めて注目する必要があると考える。 Uターンについては、本町出身者という一定のターゲットが存在することから、町外に住む出身者の実態や動向を把握し、就職、起業、農林業、住宅、子育て、地域活動など、本町で暮らすために必要な情報を継続的に届ける仕組みを構築することが重要ではないか。 そこで、以下について町長の所見を伺う。 - 本町の人口減少対策において、Uターンをどのように位置付けているのか。また、町外に住む本町出身者の実態を把握しているのか。 - 町外在住の本町出身者を将来的なUターン候補者として捉え、本人の同意を前提に登録・把握し、就職、住宅、子育て等の情報を継続的に提供する仕組みを構築する考えはないか。 - 町外で得た知識や経験を地域づくりに生かすため、Uターン希望者と町内事業者、農林業者、地域活動団体等とのマッチングを行う仕組みを検討してはどうか。 - 関係人口づくりからの移住促進に加え、Uターンを明確な政策対象として位置付け、「関係人口・Uターン・移住・定住」を一体的に捉えた人口戦略を構築する考えはないか。 プロジェクト及びスクリーンの使用についてどちらか一方に○を入れてください (無)	

1 質問の要旨は、具体的に記載すること。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。